

平成30年度第3回教育委員会協議会 会議録

平成30年度第3回教育委員会協議会

場所：高知共済会館 「桜」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成30年5月18日(金) 18:30

閉会 平成30年5月18日(金) 20:15

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	伊藤 博明
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	木村 祐二
	教育委員	中橋 紅美

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	岡村 昭一
〃	教育次長	高岸 憲二
〃	教育次長	長岡 幹泰
〃	高等学校課課長	竹崎 実
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	高等学校課指導主事	石丸 右京
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	三谷 玲子
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴(会議録作成)

【開会】

伊藤教育長	<p>ただ今から、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」に関します平成30年度第3回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。</p> <p>本日は、本年度3回目、通算では13回目の教育委員会協議会となります。前回は、四万十町内の2校(窪川高校と四万十高校)の学校の在り方について協議いただき、検討案を3案とさせていただきました。</p> <p>また、安芸市内の2校(安芸中学校・高校と安芸桜ヶ丘高校)の学校の在り方については、検討案を2案とさせていただきました。</p> <p>本日の会議では、昨年度からの協議内容を集約したのものとして、「後期実施計画」の「中間とりまとめ(案)」を作成しましたので、この内容について協議いただきたいと思います。</p> <p>また、全て県立中学校・高等学校についての内容となっておりますので、</p>
-------	---

木村委員	<p>地域ごとに進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日、協議いただいたうえで、5月23日に予定しております定例教育委員会において、付議し、正式な決定となりますので、お伝えしておきます。</p> <p>それでは、本日の議事録の署名人は木村委員、よろしく申し上げます。</p> <p>はい。</p>
------	--

【議題】

(1) 東部地域について

伊藤教育長	<p>本日は、「後期実施計画」の「中間とりまとめ（案）」についての協議となっております。それでは、まず、「全体」及び「東部地域」について、高等学校課から説明をお願いいたします。</p>
山岡企画監	<p>資料の「中間とりまとめ（案）」をご覧ください。</p> <p>まず、東部地域につきましては、室戸高校から説明させていただきます。室戸高校の全日制につきましては、ポツの一つ目にありますように、地域の課題発見解決学習に取り組んでおり、それを充実させると書かせていただいています。</p> <p>また、この後の中山間地域にある学校に共通する方向性として、ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保、市町村との連携により地元中学校からの進学率を更に向上させること、今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、地域外の生徒を確保することについて、記載しております。</p> <p>なお、定時制につきましては、聴講生用の講座を今後も開設するとかいうところ、地理的な条件を踏まえて、現状をそのまま残していくということを考えております。</p> <p>中芸高校の昼間部につきましては、「後期実施計画」における学校の在り方の方向性、ポツ（・）の3つ目にありますように、東部地域として、不登校の経験や発達障害のある生徒等に柔軟な対応のできる支援体制を整えた学校として地域からのニーズが高い、というところを書かせていただいております。</p> <p>夜間部につきましても、聴講生用の講座を今後も開設するとか、地理的な条件を踏まえて、現状をそのまま残していくということを考えております。</p> <p>そして、安芸高校・安芸中学校と安芸桜ヶ丘高校につきましては、前回の協議会でもありましたけれども、案1・2という形で今後検討していきたいと考えております。</p> <p>南海トラフ地震への対応、それから、適正規模を維持する東部地域の拠点校として残しておく必要があるというところで、安芸桜ヶ丘高校と校地を一本化する形で、あとは、安芸中学校について募集停止とするか、存続するかということが、また議論になってくると思っております。</p> <p>東部地域につきましては、以上でございます。</p>

伊藤教育長	<p>ここで参考資料の簡単な説明も併せてしていただいた方がいいので、説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>参考資料1につきましては、県立中学校に関する資料ということで、県立中学校の定員、志願者数の推移などを載せております。</p> <p>そして、参考資料の2ページですけれども、県立中学校への進学実績のある市町村別小学校6年生の児童数の推移というところです。県立安芸中学校と県立中村中学校の分を載せております。</p> <p>続きまして、参考資料2です。平成22年度～平成30年度までのそれぞれの県立高等学校の入学者数の推移ということになっております。</p> <p>次のページには、多部制単位制、定時制、通信制というのを載せております。</p> <p>続きまして、参考資料3でございます。参考資料3につきましては、これまでの協議会でもございましたけれども、地域別の中学校卒業生数の推移を載せております。</p> <p>参考資料4につきましては、先ほどの資料につきましては、各市町村ごとの地域別中学校卒業生数の推計のデータを載せておるところです。</p> <p>そして参考資料5が、津波が起きた場合の津波浸水域の県立学校一覧というところで、ここに一覧表を載せております。浸水深の深さ、30cmの津波が到達するまでの時間、そして避難訓練の実施などについて、避難場所についても書いております。</p> <p>それから、今回の「中間とりまとめ(案)」の参考資料1のところ、18ページをご覧ください。教育委員会協議会の開催状況ということで、平成29年度に10回、平成30年度に今日を含めて3回開催をしております。その開催時間や参加者の数などについて記載しております。</p> <p>それから、次のページの参考資料2には、これまでのスケジュール、今後のスケジュールを。先ほど申しましたように、今後、統合を含む対象校につきましては、検討していくこと。中山間地域の学校については、会議を開催していくことを盛り込んでおります。12月には、「後期実施計画」を策定していきたいと考えております。</p> <p>東部地域と全体の説明は、以上でございます。</p>
伊藤教育長	<p>今、事務局の高等学校課の方から東部地域の、特に「後期実施計画」における学校の在り方の方向性の部分についての説明がありました。</p> <p>ここまでは、これまでの協議会の中で議論をいただいたご意見を取りまとめたものになっております。</p> <p>この記載内容等につきまして、少し足りない部分であるとか、方向性をもっとこういうような形であったのではないかというようなご意見とか、ご指摘の点がございましたらお願いをしたいと思います。</p> <p>それでは、順番にということではなくて、お気づきの方がいらっしゃいましたら、ご発言をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
八田委員	<p>室戸高校の定時制、それから中芸高校の夜間部のところで、最後に「生徒数の確保に努める」という記述があります。もちろん運営していくうえでは、ある一定生徒数があつた方がいいのは分かるんですけども、何回か</p>

	<p>前の議論の中では、定時制とか夜間部に関してはセーフティーネット的な発想で、学びたい人が学ぶという機会は失わないために、生徒数にかかわらず、これは維持するべきではないかという議論があったと思います。</p> <p>むしろその地域にそういう学校があって、学びたいと思えば行けるんだよっていうことを広く知ってもらうことは重要だけでも、無理に定員を何とか満たそうという努力を、学校に求める必要はないのではないかというふうに思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>前回もそういったご意見をいただいておったというお話ですけれども、書きぶりとしまして、「生徒数の確保に努める」というようなところまでは必要ないんじゃないかというご意見でした。そういった方向性で、委員の皆さん、よろしいですか。</p>
各委員	<p>了承。</p>
伊藤教育長	<p>それでは今後、この後も多分こういった記述が出てくると思いますので、その点については事務局の方で少し修正をして、今後の部分についても同じような修正をお願いしたいと思います。</p>
平田委員	<p>私も室戸高校ですけれど、この室戸高校の方向性で、5つ目のポツに「総合学科の在り方についての検討が必要」と書かれていますので、中身については分かりませんが、やはり地理的に本県の東部で中学生が様々な選択ができる学習内容が、私は必要だと思っております。</p> <p>現在、4系列か5系列を置いていると思いますけど、その系列の検討も含め、お話では、工業系列なんかは希望者がいなくなっていると聞いております。いわゆる東部地域の子どもたちにとって、総合学科という学科を通して様々な選択肢のある学校を構築していただきたい。</p> <p>と申しますのも、上の表に室戸高校の入学者が、昨年度は41名、今年度は20名ということです。卒業した中学生が地域に何名いたのかということとは正確に分かっておりませんが、やはり、中学生のニーズにあった室戸高校の在り方を、地域と一緒にあって検討もしていただきたいという気持ちを持っています。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
木村委員	<p>私も先ほどのご意見と全く同意見なんですけど、併せて市町村の教育委員会と連携して、保護者や中学校に対して、総合学科のある意味の良さでありますとか、そんなことをもっと正しく伝えてあげないといけないと思います。</p> <p>進学できないんじゃないかみたいな誤解があって、それを何とか保護者とか中学校の先生方に強くアピールするといいますか、説明できる機会をつくらないと、いつまでたっても総合学科に対する理解をいただけないのではないかという気がいたします。</p>

伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。 事務局の方でコメントというか、対応できますか。</p>
山岡企画監	<p>総合学科の在り方のところについても、去年議論をして、今年は20人ということでかなり減っておりますので、そこで系列が維持できるのかということもありますので、これにつきましても、地域の意見、学校の意見も聴きながら、この総合学科の在り方の部分について具体を書いていきたいと思えます。</p> <p>宿毛高校にもまた出てきますけれども、まだ少し総合学科のメリットについて、保護者あるいは中学生へのPRが不足しているのではないかといいところが、幡多地域の地域会でも出ましたので、室戸高校、宿毛高校合わせて、総合学科のメリットについて更に周知を図っていききたいと思っています。</p>
伊藤教育長	<p>ここの「とりまとめ」の案の書きぶりはこのままとして、今後各校で、この中で方向性に基づいて出てくる部分について、今2人の委員からいただいた意見を反映させてつくってもらうという対応にしますか。</p>
山岡企画監	<p>そうです。今日いただきました意見を踏まえて、この23日の教育委員会までに委員の皆様からいただいた意見を反映した形で、今度23日にはかけたいと思っています。今日いただいた意見を、適切に反映したものにしていききたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>今の総合学科に関する部分を反映をさせて、23日にお願いしたいと思います。</p>
竹島委員	<p>5年間で、もう本当に入学者数は半減しておりますので、人数集めの方向性という点で一つ、今一番盛り上がっているのは女子野球のことだと思いますが、これを盛り込むことはできないのでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>今のところ入っておりませんが、地域会でも野球部の話は出ました。室戸市としても積極的に支援をしていくというような、地域会での意見も出ました。</p> <p>その後につきましては、室戸市の中で存続の会「室戸高校魅力化の会」というのが、5月にできたということで新聞記事にも出ていましたので、そういったなかで、野球部の在り方、そういった部分をもう少し充実していくとかといったことも、今議論をされていると思いますので、そういったところをまた、8月に学校から提出してもらう方向性に関する具体策では盛り込んでいききたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>そこは室戸高校の方に個別に対応してもらおうということですね。「とりまとめ」の方向性のところに野球の話ということではないと。明記はどうですか。</p>
山岡企画監	<p>明記することはできると思います。</p>

伊藤教育長	それでは、23日の資料では、そこはそういった部分を検討のうえ、必要であれば修正をお願いします。
山岡企画監	そこは23日というより、8月末までにそういったところを盛り込んだ形で出していきたいと思います。23日までにではなくて、今は基本的にはもうこの形で出したうえで、8月末には野球部の部分を入れた形で学校からいただきたいと思っています。
伊藤教育長	それでは、事務局の方でそこはしっかりと、そういった議論をしてくださいという話をするということですね。
山岡企画監	はい。
伊藤教育長	ほか、よろしいでしょうか。 もしありましたら、また後で戻って東部をいただいても結構ですので、よろしくをお願いします。

(2) 中部地域（前半）について

伊藤教育長	それでは、次の中部地域の説明をお願いします。
山岡企画監	<p>中部地域につきましては、まず城山高校からでございます。</p> <p>城山高校は、不登校経験者や、発達障害のある生徒の方にも柔軟な対応のできる支援体制を整えた学校というところですので、ここでも、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を通じて教育活動の充実を図る。そして、きめ細かな指導ができるような教育課程を編成するというところでは、</p> <p>また、絵金歌舞伎の伝統があるところですので、地域貢献活動や中学校との連携を強化するといったところを盛り込んでおります。</p> <p>続きまして、山田高校につきましては、地域会のなかでは、香美市長から、高知工科大学への連携強化を図ってもらいたいという声がありました。</p> <p>そして、香美市では探究型ということを取り口に、小学校・中学校・高校・大学、そして特別支援学校ということで取り組んでおりますので、探究型学習を推進してもらいたい。</p> <p>ついでには、共同プログラムなども考えてもらいたいという話がありますので、そういったところを盛り込んでいるところです。</p> <p>探究型学習の推進を図るとともに、共同プログラムの開発など、高知工科大学への接続を図るための魅力ある学科を新設するというところも書いております。</p> <p>そして商業科につきましても、地域との連携した取組によって地域産業の担い手を育成するというところで、現在でも地域に根付いた商業科となっておりますけれども、それを今後の在り方の方向性でも盛り込んでいくところがございます。</p> <p>続きまして、高知農業高校でございます。ここでも地域からは、農業後継者の育成にとって、絶対なくてはならないという声が出ました。</p>

	<p>コースとしては、全学科で専門コースとして、後継者・就職等の養成コース、そして進学コースというところ。そして現在でも、生活総合科・食品ビジネス科では、農業関連産業に就職しようという子どもたちが頑張っているという声がありました。</p> <p>そういったことも踏まえまして、ここでは「農業を学ぶ」ことによる農業後継者の育成。そして「農業で学ぶ」という観点から、農業のもつ教育力を最大限に生かした取組をしていくというところなんです。</p> <p>また、農業関連産業というところで、農業生産工程管理（GAP）教育や食品製造に関する HACCP 教育の充実も取り組むということを書いております。</p> <p>そして、県の取り組んでおります高知県産業振興計画との連動した取組も推進していきますということで、県の方としても部局横断的に取り組んでいかなければいけない部分があるのかなと思っております。</p> <p>続きまして、高知東工業高校でございます。高知東工業につきましては、現状では、ものづくりを通じて社会性の育成を図っておるところです。</p> <p>また併せまして、大学受験にも対応できる選択科目の設置や習熟度別学習などに取り組んでいるところです。</p> <p>そういったところも踏まえまして、方向性では、機械系と電気系に特化した工業高校として、専門的な知識や技能を身に付ける。</p> <p>そして、ものづくりの魅力を広く地域に発信し、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>工業系大学への進学にも対応できるような教育活動の充実を図る、というところがございます。</p> <p>続きまして、岡豊高校でございます。岡豊高校につきましては、現在、5つの系列と二つのコースにより、生徒の実態や進路希望に即した学びを提供しているというところがございます。</p> <p>また、文部科学省の遠隔教育の指定を受けた授業も行っており、運動部活動では、「中部地域の運動部活動強化拠点校」というふうな指定も受けているところです。</p> <p>在り方の方向性としましては、多様な学習を可能にする教育課程、そして運動部活動の充実。そして大規模校のメリットを生かした遠隔教育にも取り組んでいく。</p> <p>そして今、1年次からのコース制をどうしていくのかということの検討も、併せて今後していくというところが盛り込まれているところでございます。</p> <p>伊藤教育長 中央部は校数が多いので、適切なおところで2つぐらいに、前半、後半として分けて説明してください。</p> <p>山岡企画監 そのようにするつもりでしたが、事前に説明を言い抜かしていました。</p> <p>続きまして、高知東高校でございます。高知東高校は総合学科でございますので、現在5系列、人文社会・自然科学・国際コミュニケーション・情報メディア・生活教養など、多様な選択科目ができるようになっていきます。</p>
--	---

進路につきましても、8割が進学、2割が就職というところで、進学の割合が高くなっております。

一方、専門学科としての看護科があり、専攻科は、国家試験の合格率100%を維持しているというところです。

在り方の方向性では、総合学科の特色を生かして、多様な進路希望に対応できるカリキュラムによる進路指導をする。

看護科は専攻科をあわせた5年間の一貫教育で看護師養成を行うというところで、活躍できる人材を育成するというところです。

高知南中学校・高等学校につきましても、平成27年度からグローバル教育を推進しております。具体的には、探究型学習や英語教育プログラムを推進しているところです。

ここは統合によりまして、平成32年度が最後の入学生となり、平成35年4月に統合完了になるというところです。

そういったことも踏まえまして、在り方の方向性では、引き続きグローバル教育として探究型学習と英語教育プログラムの更なる充実を図っていく。

そして平成33年3月以降は、高知南中学校の卒業生については、基本的に高知国際高等学校の普通科に入学するというところを書いております。

続きまして、高知工業高校でございます。ここは平成26年度から、1年生は高知工科大学と連携した探究型学習、そして2年生は科を超えたグループ活動、3年生は科を超えた課題研究なども行っております。

資格・免許も、インテリア設計士、測量士、施工管理技士などの資格を取れる体制をとっております。

そういうことで、在り方の方向性としましては、工業学科をもつ学校の拠点校として、体験的・課題解決的な学習を通して、ものづくりに貢献する人材を育成する。

そして、高知工科大学と連携した探究型学習を引き続き充実した形で行うということを書いております。

続きまして、高知追手前高校です。この学校では、80%以上の生徒が部活動にも所属をして、勉強と部活動の両立と目指した取組を図っているというところです。

そして近年は、卒業生の約50%が現役で国公立大学へも合格しており、医療系大学の医学部にも合格している実績や難関私立大学へも多数合格しているというような状況もあります。

また、文部科学省の指定を受け、平成27年度から吾北分校との遠隔授業なども実践しております。

そういうことを受けまして、方向性としましては、全ての教育活動を通して、幅広い教養や探究する力を身に付ける教育を実践していく。

進学拠点校としての取組を充実して、県内の進学の拠点校として牽引役を担う。

遠隔教育の中核をなす学校として、吾北分校などへの遠隔教育の教育活動を支援していくというところです。

少し長くなりますので、ここでいったん切りたいと思います。

伊藤教育長	<p>そうしましたら、中部の前半、5番の城山高校から13番の高知追手前高校までの説明をいただきましたので、この学校に関しましてのご意見をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。</p>
八田委員	<p>具体的なところでいきますと、山田高校で幾つか項目があるんですけど、2番目、3番目、4番目は、本質的には同じことを繰り返しているような感じがします。</p> <p>少し気になるのが、一番最初のポツで、「中部地域の東部（香長地区）の進学拠点校として」という言葉が出てきていて、実はこの進学拠点校という言葉は、須崎総合高校でも進学拠点校として、これは地域の方からそういう要望があつて、そういう言葉を入れたと思うんですけども。</p> <p>そもそも進学拠点校という、この呼び方っていうのは、何か具体的な制度として、こういう支援ができるのか。あるいは単に進学拠点校っていうのは、いろんな活動を通じた成果として、国公立大学への進学数が非常に多いというような意図で使う言葉なのか。</p> <p>何か進学拠点校と呼ぶ意図は具体的にはどういうことなのか、少し説明がいただければと思うんですけども。</p>
山岡企画監	<p>実際は、進学拠点校と進学拠点校でない学校とで明確な差があるというわけではなくて、一定の看板みたいな形にはなっていると思ひます。</p> <p>ただ、そういった進学拠点校ということで、一定の生徒を集めているというところはあるんですけども、ただ、それによって学校の制度として、全然他の学校と違ふということではないところでございます。</p>
八田委員	<p>そうすると、例えば地域の保護者の皆さんから、進学拠点校にしてくださいというリクエストの意味は、国公立大学への進学、あるいは難関の大学への進学を増やしてくださいという意図で理解していいでしょうかね。</p>
山岡企画監	<p>はい。須崎総合高校の時のPTAさんらの意見では、今現在西部では、高知市の高知西高校から西にいくと中村高校しかないというところがありまして、その中間に、やはり進学拠点校を設けてもらいたいと。</p> <p>そういう進学拠点校から国公立大学への進学者が増えるということになると、わざわざ須崎から高知市に通う必要がなくて、部活動と勉強の両立ができるといったような趣旨で要望が出ておりました。</p> <p>一定地域の拠点校という意味合いもあつて、これまでは高知追手前高校と高知小津高校と高知西高校、それと東は安芸高校、西は中村高校だったんですけども、今回、山田高校と須崎総合高校についても、その地域の拠点校という意味もありまして、進学拠点校ということで一緒に書かせていただいたところでございます。</p>
八田委員	<p>はい。なので、理解としては、進学拠点校と呼ぶから何か特別な制度ができるわけではなくて、そこへ行けば、ちゃんと国公立大学に行けるという実績を学校は出して、地域の子どもたちは安心してそこに進学できるという、実績を出さなければいけないということですね。</p>

山岡企画監	<p>はい。そういう形で進学コースの充実とか、そういった部分を進学拠点校ということで取り組んでいきたいと考えております。</p>
八田委員	<p>今度は別の観点なんですけど、中部地域ではないですが、中山間地域にある学校に共通する方向性として、ICTの活用。それに難関校に対応できる学習環境というようなことが、共通にずっとこれからも出てくるわけですが、それと逆に遠隔授業の拠点となるのが、岡豊高校と高知追手前高校に出てきたんですね。高知追手前高校の場合には、吾北分校との本校・分校の関係から来るものかなと思っております。</p> <p>それで、そういう意味でいうと岡豊高校は、今度逆にそれ以外の中山間の学校の遠隔授業を担うという、何かそういう体制とか役割分担みたいなものは、具体的に何かあるんでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>まだICTの活用のことにつきましては、今、学校ごとでやっておりますけれども、機器の面で切断が5分ぐらい中断したりだとか、少し課題もありますので、今検討をしております。</p> <p>また、一つの学校から複数の学校に、中山間の小規模校に配信することについては、少し学校の負担も大きいので、今その辺については、課題として教育委員会の方で検討しているところでございます。</p>
八田委員	<p>そうすると、岡豊高校に関しては現状ではまだやっていない。これからやるのですか。</p>
山岡企画監	<p>岡豊高校につきましては、今、嶺北高校と古典の1科目で遠隔授業を行っております。</p>
八田委員	<p>では、現状ではパートナーで岡豊高校と嶺北高校、それから高知追手前高校は本校と分校でやっているということですね。</p>
山岡企画監	<p>はい、そうです。そのとおりでございます。あとは、四万十高校と窪川高校でも遠隔授業は実施しております。</p>
伊藤教育長	<p>今、説明があったように、文科省の事業を導入して個々の6カ所3組でやっていますが、全体としての部分は、県教委の方で、また別途ICTの活用ということで検討をしております、こんな書き方になっております。</p> <p>13番の高知追手前高校の説明では、「吾北分校など」と説明したけれども、この書きぶりには「吾北分校の」と書いてあるが、ここは「など」でいいんですね。吾北分校にずっと限定していくってことではないでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>はい。吾北分校などの教育活動を支援するという形でいきたいというふうに思っております。</p>
伊藤教育長	<p>では、そこの訂正をお願いします。</p>

木村委員	<p>高知農業高校ですけれども、山田高校が高知工科大学と連携をして、非常に子どもたちにいい影響を与えるというのを、目の当たりにして見てきたんですが、高知農業高校も高知大学の農学部と連携を確か、どの程度か分かりませんが、しているというお話を学校で聞いた覚えがあります。</p> <p>もっともっとそういった大学との連携をしていくことが、子どもたちにとっても大きなプラスになると思いますので、ここもそういった形で大いに農学部なんかと連携をしていくんだというところを、混ぜた方がいいのではないかなという気がしました。</p>
山岡企画監	<p>そういった部分はこれから学校で、具体的な支援策を考えるなかで、事前にこういった意見がありますということをお伝えして、そういった大学との連携も含めて、最終案に盛り込むように、学校の方にお伝えしていきたいと思っています。</p>
伊藤教育長	<p>それから一つ、先ほどは失礼しました。八田委員から山田高校のポツの2、3、4で大体同じようなこと書いているのではないかというご指摘をいただいているので、そこも23日の教育委員会に向けて整理できるところは、まとめて書けるところは書くように少し検討をお願いします。</p>
平田委員	<p>一つ目は城山高校です。私、城山高校の一つの、普通科の学校としての特色というのが、福祉教育へ力を入れているというのが、頭に残っています。</p> <p>そういう福祉教育っていうものも、学校が今後も望むならば、県としても支援していくようなスタンスが表現できないものかなと思っております。</p> <p>山田高校は、いわゆる地の利というんでしょうか。学園都市構想というキーワードを使って振興策をとっていこうとしているのは、素晴らしいと思います。</p> <p>また、先ほどありましたけれど、農業高校の高知大学農学部との連携、南国市には高知高専もあり、また香南市にはポリテクカレッジなんかもありますので、高知東工業高校も高知工業高校も、工科大等を含め、地の利を生かした連携はとっていると思いますけれど、そういう取組は、工業学校においても一層深めていただきたいと思っております。具体的に、高知工業高校ははっきり載っております。</p> <p>それと高知県は、やはり第1次産業というのは大変大きなウエイトがあると思います。農業教育、水産教育、林業など。今、どうなっているかは分かりませんが、この数年前まで工業の出荷額というのは、高知県は全国で最下位ではなかったかと思えます。</p> <p>高知県の学校数から見て、安芸桜ヶ丘高校も1校と考えるのであれば、高知県の高等学校の数からいまして、工業学校の独立校は5校あると数えることができると思います。大変、工業教育に力を入れている県ではないかと思っております。</p> <p>ここにも、色々な表現はありますけど、私はやはり工業学校におきましても、農業教育と同じように、高知県産業振興計画に地域の企業と連携をして取り組む。キャリア教育も含めてにもなろうかと思えます。</p>

	<p>そういうふうな方向性を持たせた学校づくりをしてほしいということ を、この中央の2校には特に呼びかけていただきたいという想いを持って おります。</p>
伊藤教育長	<p>そういったような書きぶりも含めて、事務局には検討してもらいたいと 思います。今、工業高校にはという話もありましたが、後でまた出てきま すので、工業高校の書きぶりのところは少し、全体的にそういう方向性に するという事によろしいですか。</p>
山岡企画監	<p>はい。農業高校と水産高校について、高知県産業振興計画と連動した取 組と書いていますので、産業振興計画もすそ野が広いので、そういった ところについても、共通の合わせた形で書いていきたいというふうに思 っております。</p> <p>あと、城山高校につきましても、地域の福祉教育についてもご理解いた だきたい、充実をという声もありましたので、また学校の方にもお伝えし、 福祉教育の充実の部分も引き続きやっていくということについても、お伝 えしていきたいと思っています。</p>
伊藤教育長	<p>先ほど平田委員からは、産業振興計画の部分もそうだけど、地域の企業 とも連携した、というようなご発言もあっているので、工業高校について はそこも含めて書きぶりの検討をお願いします。</p>
竹島委員	<p>各学校の内容とか文章の量とかは関係ないかもしれませんが、高 知東高校とか高知丸の内高校は最近すごく人気ですね。それにやはり甘 んじていたらいけないので、もう少し内容的に、もっともっとPRするべき ところがあるのではないかなと思います。</p> <p>私自身がスポーツをしているものですから、高知東高校では、高知県で は珍しくレスリングに力を入れていますし、高知丸の内高校にしたら女子 のソフトボールとかにすごく特化していると思うので、そこら辺を少し量 的に入れて、ほかの高校と比べるわけではないんですけども、そこら辺 はどうでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>学校によってボリュームが、量が多い所少ない所がありますので、今後、 学校からの振興策を検討していくなかで盛り込む、そういったレスリング ですとか、女子ソフトボールとかいう意見がありましたので、そういった ところも合わせて盛り込んでいただきたいと考えています。学校の方にも お伝えしていきたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>はい。ほか、ございますでしょうか。</p>
各委員	<p>(意見なし)</p>

(3) 中部地域（後半）について

伊藤教育長	<p>そうしましたら、また振り返っていただいで結構ですので、14番からの、高知丸の内高校も出ましたので、説明をもう一度お願いします。</p>
山岡企画監	<p>高知丸の内高校は、現在、学力向上に向けた取組に力を入れていまして、センター試験受験者も増加倍増して、というような状況もあります。国公立大学への進学者も増加しております。</p> <p>また音楽科もありますが、音楽科では、教員によるコンサートとか、高知市内の中学校との合同練習、公開レッスンなどを実施しているというような状況がございます。</p> <p>一方、課題といたしましては、音楽科の志願者が少ないといったところがございます。</p> <p>そういったこともありまして、ここの方向性としては、多種多様な選択科目の設定や大学等との連携を図るということで、生徒の進路希望に応じたカリキュラムの充実を通して、教育活動の充実を図っていきたいと考えております。</p> <p>音楽科につきましては、専門科目の実習や音楽大学との連携授業による技術の向上、そして、感性を持った生徒の育成に努めていきたいと考えております。</p> <p>そして、高知小津高校につきましては、現在理系の充実を教育目標に掲げて、理科・数学の学力伸長につながる教科指導を徹底しており、大学進学率の6割が理系大学に進学しているというところなんです。</p> <p>スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の4期の指定を受けておりまして、県内では高知大学、高知工科大学、県立大学との連携、そして県外では、大阪大学との連携共同を図っているところなんです。</p> <p>進学実績としては、100人以上の国公立大学進学を達成。課題としましては、理数科の志願者が少ないというような状況があります。</p> <p>そういったところもありますので、理数教育の拠点校として、スーパーサイエンスハイスクール事業に学校全体で取り組み、本県の理科教育を牽引していきたいと考えております。</p> <p>また、難関大学を含む国公立大学への進学実績を向上させていくというところなんです。</p> <p>高知北高校につきましては、単位制高校として多種多様な選択科目の設定をすることによりまして、生徒一人ひとりが個性を伸ばし、進路希望を実現できるように取り組んでいるところなんです。</p> <p>そして方向性としては、昼間部では、多様なニーズのある生徒に応じたきめ細かな支援を行う。夜間部につきましては、働きながら学ぶことや学び直しなど生徒の希望する進路の実現に向けて支援をするというところ。通信制につきましては、計画的な学習を確実に継続するような支援を行うといったようなことを盛り込ませていただいております。</p> <p>続きまして、高知西高校につきましては、スーパーグローバルハイスクールの指定を平成27年度から受けておりまして、中間評価でも高い評価を受けているというところなんです。</p> <p>方向性としてしましては、スーパーグローバルハイスクール事業などのグローバル教育を推進するというところなんです。</p>

また、高知南中学校・高等学校との統合がありますので、平成 35 年度には、高知国際中学校・高等学校として統合完了になるというところも、この「後期実施計画」には盛り込ませていただいております。

高知国際高校・高知国際中学校につきましては、平成 30 年 4 月に中学校が開校、平成 33 年 4 月に高知国際高等学校が開校するということです。

現在は、国際バカロレア（IB）のミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）申請をしまして、これについては、平成 32 年 8 月に認定校になり、ディプロマ・プログラム（DP）については、平成 33 年 4 月に認定校になる予定でございます。

ここでも、高知西高等学校が進学拠点校ということもありますので、難関大学を含む国公立大学、医学部への進学を支援する体制を整えていきたいと考えております。

そして、伊野商業高校につきましては、今でも「仁淀ブループロジェクト」といった課題研究を実施してございまして、商業科の特性を生かして年間 100 社を超える企業と連携したキャリア教育を実施しているところです。

そして、生徒の希望に応じたコース設定なども行っているところでございます。

伊野商業高校につきましては、商業教育の拠点校として、商業教育の充実を図るといったことを方向性のトップに持ってきております。

そして、地元の大学や企業との連携を図る。具体的なインターンシップなどを通じてキャリア教育を推進していくところでございます。

続きまして、春野高校でございます。春野高校は総合学科ということで現在 4 系列、人文・食農・園芸・生活クリエイトというところで、4 系列をもって多様な進路希望に対応しているところです。習熟度別の少人数授業なども行っているところです。

方向性としましては、総合学科の特性を生かした実践的・体験的な学習を通して、高知県を支える人材の育成を図るところです。

先ほど、木村委員のお話にもありましたけれども、総合学科については、メリットを保護者や中学校に理解してもらうように PR を図っていくというところです。

総合学科の特徴である、系列によるカリキュラムを生かした指導を充実させていくことが、必要ではないかなと考えております。

続きまして、高岡高校でございます。高岡高校につきましては、地域会のなかで、土佐市のなかで地域との関わりが薄いのではないかという意見もございましたので、ここの方向性では、「総合的な学習の時間」で、地域や行政との連携をより深めるといったところを。

そして、高校生が地元の小中学校に出向いて出前授業をしたり、地域イベントに積極的に参加するなど、地域貢献できる体験を増やすということで、地域との連携を深めていきたいと考えております。

続きまして、高知海洋高校でございます。高知海洋高校につきましては、県内唯一の水産・海洋専門学校としてスペシャリストの養成を目指している。2 年生の段階で、食品・航海・機関の各系列に分かれているということです。

方向性としましては、食品・航海・機関のコース別インターンシップや、土佐海援丸の航海実習などを通じて、豊かな人間像を育てる取組を推進し

	<p>ていきたいと。併せまして、資格取得の取組を重視していくというところ です。</p> <p>そして、海沿いにありまして、津波による大きな被害が想定されている 学校ということもありますので、地域とも連携しながら避難訓練を実施す る。そしてBCP（事業継続計画）の策定を着実に実施するといったような ところ。</p> <p>そして、土佐市や県の産業振興計画との連携を図り、地域資源活用の取 組を推進していきたいと考えております。</p> <p>中部地域につきましては、以上でございます。</p>
伊藤教育長	<p>そうしましたら、22番の高知海洋高校までご意見をいただきたいと思 います。よろしくお願いいたします。</p>
中橋委員	<p>ここの中部の地域において、よく出てくる言葉ですけど、「難関大学」と いう言葉が出てきておりますけれども、少し各校によって、例えば先ほど、 その前に出てきました高知工業高校なんかでは、「国公立大学や難関大学へ の進学希望」という言葉なんですけれども、例えば高知小津高校であれば、 「難関大学を含む国公立大学への進学」というふうに、ほかにも出てきま すが、その難関大学という言葉が、少しずつ違った形で使われているので はないかなと感じるところがありますので、言われようとしているところ は分かるんですけども、同じ言葉で違った意味に取られるのもどうかと 思うので、表記の方法を少し工夫されたらどうかと思うんですが、いかが でしょうか。</p>
山岡企画監	<p>例えば、高知小津高校でいいますと、「難関大学を含む国公立大学への進 学実績」ということで、この場合は、ここでいう難関大学というのは、国 公立大学の難関大学というようなことで、今は整理しております。高知工 業高校につきましては、「国公立大学や難関大学」という場合の難関大学は、 私立大学も含めてのという意味で使っております。</p> <p>ただ、そういったご意見がございますので、その辺については事務局の 方で少し整理させていただきたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>ほかにもございますでしょうか。</p>
平田委員	<p>参考資料5なんですけど、7ページとなっておりますけど、津波浸水域の 県立高等学校一覧というのがございます。</p> <p>そこで、浸水深が一番大きいのは、やはり清水高校の12m、到達時間も 11分という大変短い時間。その次に大きい浸水深というのは、高知海洋高 校の8m、25分という状況です。</p> <p>今回、津波とか想定外を想定した対応策を考えるというなかでは、高知 海洋高校というこの文言は少し弱いという感じをしております。やはり、 子どもたちの命を守るということで、安全確保についてしっかりした言葉 で述べていただきたいと思います。</p> <p>そのことによって、高知海洋高校で学ぶ子どもたちが、命を守られ安全 だという認識に立てるようにしていただきたい。危ないから訓練等を実施</p>

	<p>して解消するといえ、どこの学校でもこれはできると思います。大変時間的にも迫った津波が来るわけですので、そこをしていただきたいと思います。</p> <p>ただし、反面的には水産教育ということで、海に近いほど利点もあるということは分かっております。そこで、安全対策をしっかりと持って、方向性を検討していただきたいというのが私の想いです。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そこら辺はしっかりと安全が確保できる、より具体的な書きぶりをしてくださいということだと思いますので、そこはしっかりと対応させていただきます。</p>
山岡企画監	<p>そういう表現に直していきたいと思っております。</p>
八田委員	<p>高知小津高校でスーパーサイエンスハイスクール（SSH）を４期連続でやっているというのは、全国的にもかなりいい成果だと思うんですが、もともと、SSHは理数科があるから、こういうことがうまくできたわけです。</p> <p>ところが、現実には理数科の人气がなくて、普通科は入学定員が埋まるんだけど、理数科は定員割れてしまうというようなことがある。</p> <p>それで、スーパーサイエンスハイスクール事業、これを学校全体で取り組む。これは非常にいいことだと思うし、そのこと自体は何の問題もないんだけど、それは単に、科学技術振興機構（JST）から今来ている事業であって、それは高知小津高校の看板そのものではない。</p> <p>高知小津高校の本来の看板は、理数科があるってということが看板であって、それが学校の在り方の方向性ではないかなという気がします。</p> <p>だから、もう一度理数科をしっかり支援して、その理数科が引っ張る形で、学校全体でSSHがいくというようなことを少し考える必要があるのではないかな。少なくとも、ここの記述に「理数科」という言葉が出てこないもので、少し気になりました。</p> <p>あとは、細かいんですけども、一つ目のポツの最後が「理科教育を牽引」となっていますけど、最初に「理数教育の拠点校」となっていましたので、「理数教育を牽引」でいいかなという気がします。</p> <p>もう１点は、高知西高校のところでも少し記述の意味がよく分からなかったんですが、一つ目のポツで、高知西高校の進学拠点校としての成果を「県全体の進学指導力を向上させる」という文言があって、それは具体的に、県全体のほかの学校の進学指導力を向上させるというのは、どんなイメージなのか、もし分かれば教えてください。</p>
山岡企画監	<p>高知小津高校につきましては、「理数科を中心として」というような表現を、ポツの一つ目に入れるような形で修正をしたいというふうに考えております。</p> <p>そして、「理数教育の拠点校」ですね。「理数教育を牽引する」という形で、ここも直したいと思います。</p> <p>それと、高知西高校につきましては、こういった表現はほかのところにもあると思うんですけども、そこで進学拠点校としてのノウハウをほか</p>

	<p>の学校にも伝えていという意味で、牽引役として、その役割を果たしていただきたいということで、高知西高校には書いております。</p>
八田委員	<p>それは、高知西高校で進学指導した先生を、積極的にほかの学校に異動していただいて活躍するような、そういうスキームをつくるというイメージでいいんですか。</p>
山岡企画監	<p>人的なものだけではなくて、ノウハウなどを蓄積して、こういう時にはこういう、進学のためにはこういうノウハウがある、実績ですよ、そういうノウハウ的なところを書類に残しておくということも含めてだと思っております。</p> <p>人的な部分だけに留まらず、そういった成果を、こういったことをすれば進学実績が上がるとか、そういったところを蓄積して、県内全体に広げていくというようなことかなと思っております。</p>
八田委員	<p>それでは、中身はそうだとすると、どうして高知追手前高校とかそういう所では、そういう話は出てこないんですか。</p>
山岡企画監	<p>高知追手前高校は、少し言葉足らずかもしれませんが、真ん中のポツで「県全体の大学進学への指導力の向上をさせる牽引役を担う」という形で、ここのなかで書いておるところでございます。</p>
八田委員	<p>あと、最後1点は、高知海洋高校の2つ目のポツで、「小中学校との連携を図り」というところがあるんですけど、高知海洋高校は県内唯一の水産系ということなので、ほかの学校が小中学校と連携するというのと、少し意味合いが違うのかなと思います。</p> <p>全县対象に小中学校に対して、水産に興味・関心を持つような取組をしようとする、高知海洋高校としてはどんなふうにアクションを起こせるのか、少し疑問があったんですが、どうでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>今でも土佐海援丸の活用などによって、航海実習の前に小学生や中学生、PTAの1日体験航海とか、そういった小学校も含めた土佐海援丸の活用といったこともやっています。</p> <p>現在、土佐海援丸の利活用の部分で小学生も含んでやっていますので、そういったところを引き続きやっていくという意味で、小学校ということはあると思います。</p>
中橋委員	<p>高知北高校なんですけれども、高知北高校は高知市の通学しやすいところであって、場所も非常に良く通いやすいところにあります。かつ学び直しというのか、そういう色々な問題を抱えた子が行く学校として、ますます今後需要が高まっていくのではないかな、という気持ちもあります。</p> <p>これを文言に書き込むかはどうかは別として、この中に書かれてある方向性っていうのは、なかにいる生徒たちに、このような学習を取り入れてという視点が主だとは思いますが、少し言葉は適切かどうか分からないんですけれど、門戸を開くというのか、途中別の学校で中退した子も入り</p>

	<p>やすい、もう一回高校生としてやり直せる。今でも通信制の半分ぐらいは、そういった中退者の子がいるというデータもあるみたいですけども。</p> <p>そういったもう一回ほかの学校で失敗しても、この高知北高校で学べるという、門戸を開くというような視点も検討課題として考えてもらえたらいいのではないかなと思いますので、伝える機会があったら、伝えていただきたいと思います。</p>
山岡企画監	<p>はい。夜間部のなかに学び直しというところがありましたので、そういったところでそういうニュアンスも出していたつもりなんですけれども、もう少しそこを明確にするような形で、学校にもそういった意見があったことはお伝えしていきたいというふうに思っています。</p>
伊藤教育長	<p>ほか、ございますでしょうか。</p>
各委員	<p>(意見なし)</p>

(4) 北部地域について

伊藤教育長	<p>それでは、北部地域の方の説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>北部地域につきましては、嶺北高校からご説明させていただきます。10ページでございます。</p> <p>地域会では、カヌーを中心とした学校の活性化というようなお話がありました。それと、中高一貫教育の推進も図ってほしいというところが、土佐町あるいは本山町の方からございました。</p> <p>そこで、方向性としましては、連携型中高一貫教育を推進するということ。</p> <p>そして、カヌー一部生の全国募集など、自治体の協力を得て、地域外からも生徒を受け入れるような体制を構築していきたいというふうに考えております。</p> <p>先ほど少しお話もありましたが、岡豊高校との遠隔教育を今でも実施していますので、そういったところも、引き続き遠隔教育を実施する点も盛り込んでおります。</p> <p>また、生徒の自主的な活動組織というのも、嶺北フリーゲルズとか、嶺北ユースネイバーズとかいうところもありますので、そういったところも引き続き積極的に支援をしていきたいと考えております。</p> <p>そして、11ページの高知追手前高校吾北分校です。この学校では国公立大学への進学者というのは、平成26年度から平成28年度までいました。生徒一人ひとりに応じた丁寧な個別支援をしていきたいと考えております。</p> <p>また、高知追手前高校の本校との遠隔教育などを実践しており、平成29年度は2科目、政治経済と数学探究で単位認定も行っております。</p> <p>そういったこともありまして、もともと20人以下が2年連続になると募集停止を検討するというようなところもありましたけれども、地域会での意見を踏まえたうえで、存続していきたいと考えています。</p>

	<p>学校の在り方の方向性としましては、少人数の利点を生かして、国公立大学への進学や就職まで、生徒の多様な進路希望を支援していきたい。</p> <p>そして、清流太鼓部などの地域との連携の部分もありますので、地域との連携、交流活動、地域の特性を生かした取組を通じて、生徒数の確保に努めていきたいと考えております。</p> <p>あと、中山間地域に共通する方向性としては、両校に書くような形になっております。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、北部地域の嶺北高校と高知追手前高校吾北分校につきまして、ご意見を申し上げます。</p>
竹島委員	<p>本当に細かいことなんですけれども、どこの高校も割と「国公立大学進学から就職まで」って書いてあって、吾北分校だけは「四年生大学進学から」みたいになっていますけれども。ちょっと細かすぎますよね。</p>
伊藤教育長	<p>記載内容の表現が特にここだけがこういうふうになっているというのは、意図は特にないのでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>ここは直前に直したというところもありまして、学校の想いがあるようです。そういった意見があったということは、学校の方にお伝えしていきたいと思っております。この部分も、もともとは「国公立大学進学から」だったんですけれども、直前に直してこうなったというところがございます。</p>
伊藤教育長	<p>23日までに、その意図を確認してください。確認して、もしあまりほかの学校と変わらないようでしたら、表現の仕方を合わせたらいいと思いますので、そういう対応をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>はい。</p>
伊藤教育長	<p>はい、平田委員。</p>
平田委員	<p>私も、この北部地域でございますけれども、10ページの上の方を見てまして、平成15年には北部地域の中学卒業生総数で見まして、平成15年は3割弱、平成25年は約4割が嶺北高校へ入学しており、数字だけの違いですけれども、今年が2割ぐらいの状況です。</p> <p>このように、北部地域の中学生が嶺北高校へあまり志願をしなくなったという状況が伺えるわけです。大変学校としても、本当に努力をされておると思います。しかし、何か学校としての魅力という点をご検討いただきたいと思っております。</p> <p>事務局からお話のありましたような、連携型中高一貫教育の推進とか、保小中高の連携を行うというのは、大変大事だと思います。また先般の新聞でも、カヌー部は全国募集をするとありました。</p> <p>高知県におきましても、嶺北地域というのは大変大切にしないといけな</p>

<p>木村委員</p>	<p>い地域だと思っておりますし、やはり高校の存続問題が本当に議論をされる時が、このままだとそう遠くない将来起きそうに思います。</p> <p>何とか県の教育委員会も、学校と地域と市町村の教育委員会とも連携をして、嶺北高校の魅力化対策を早急に講じていただきたいと思っております。</p> <p>関連ですけれども、非常にいい例が橿原高校にあります。後から出てくるんでしょうけれど、中高連携して、充足率が非常に高い高校の在り方を実現しているので、どこかそこら辺に何かヒントが、多分あるのではないかなと思います。</p> <p>ぜひ嶺北高校もそういったところを研究をして、地元の中学生在が地元の高校へ入ってくるということを、もう少し頑張ってもらわないと、この21%というのはやはり、相当厳しい数字じゃないかなと思いました。</p>
<p>伊藤教育長</p>	<p>はい、ありがとうございました。事務局の方で。</p>
<p>山岡企画監</p>	<p>嶺北高校につきましては、地域もそういった危機感を持っているということで、この3月に「嶺北高校魅力化の会」というのができまして、市町村長と学校の校長が入って会を立ち上げております。</p> <p>そういったなかで、カヌーをはじめ振興策を考えているというところですので、教育委員会としても、積極的に支援をしていきたいと思っております。</p> <p>そういった橿原高校の先行例、野球部とかアーチェリーとか、そういった部活動の強化とか、そういったところも合わせて、県議会からも生徒が喜ぶような方策をと言われております。嶺北高校については何とかできるような形で、学校と一緒に取り組んでいきたいと考えております。</p>
<p>八田委員</p>	<p>高知追手前高校の吾北分校が少し気になっています。今までのいろんな学校の在り方を見た時に、入ってくる生徒像が3つパターンがあって、一つは高知市内校なんかは、学力でしっかり選抜をちゃんとする学校。</p> <p>それから、地域に唯一の場合には、非常に幅広く、原則受け入れるべき学校。</p> <p>それともう一つは、学び直しとか不登校とか発達障害とかにもちゃんと対応できるという学校。その3通りぐらいが、多分あると思います。</p> <p>一方で出口を考えた時には、進学拠点校という言葉が適切かどうかは分からないけれども、大部分がとにかく大学への進学を主眼に置いて必死になって勉強をするっていう学校。</p> <p>そういう子どももいながら、就職する子もいるっていう、幅広く進路も対応するという学校とがあって、おそらく地域に唯一で、幅広く受け入れれば、進学から就職まで幅広く対応する必要がある学校になるだろうと思います。</p> <p>そういう目を見た時に、高知追手前高校と吾北分校っていうのは、そもそも学校の在り方が少し違っていて。高知追手前高校の本校は、学力でしっかり厳しく選抜して、その代わり、もう本当に一生懸命勉強をさせて難関も含めた大学へ行かせようという学校です。</p> <p>一方で、吾北分校はその地域の子どもたちを広く受け入れるべき学校で</p>

	<p>あつて。それが今度出口で考えたら、やはり就職から大学進学まで広く対応をしなければいけない。</p> <p>なので、学校の在り方が少し、そもそも違うとすると、本校・分校の相互交流というところに、実は非常に難しさがあるのかなと思います。</p> <p>そこをどういう連携をするのが、特に吾北分校側にとってメリットがあるのか。単に遠隔教育でどんどん授業を流せばいいってことでは、多分ないと思うんですけど、具体的な答えを、私は持ってないんですがそう思っています。</p> <p>その、本来その学校のある在り方が違うけれども、それは本校・分校の関係にあるという場合に、どういう連携がいいのかということをしかり考える必要があると思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい。そういうところが多分、方向性で検討をされてくるんだと思いますけれど、事務局の方で何かありますか。</p>
竹崎課長	<p>現在の本校と分校の間では、例えば文化祭で交流をしたりとか、生徒会で交流をしたりといったようなことを行っているところがございます。</p> <p>やはり、色々な生徒同士で交流をすることによって、コミュニケーション能力であるとか、多様な考え方、相手の立場に立った考え方といったようなことも身に付いてくるというようなこともございます。</p> <p>確かに学校の特色が異なりますので、簡単にはいかない部分もあろうかと思いますが、そういった交流によって、連携によって生まれてくるものもあろうかと思いますが、今後こういった連携ができるのか、相互交流ができるのかといった部分は、具体の部分は、特に本校と分校の関係でございますので、十分な話し合いもできるかと思いますが、話を詰めてまいりたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>ほか、ございますでしょうか。</p>
各委員	<p>(意見なし)</p>

(5) 高吾地域について

伊藤教育長	<p>そうしましたら、高吾地域の方に移りたいと思いますので、説明をお願いいたします。</p>
山岡企画監	<p>はい。高吾地域につきましては、12 ページに須崎総合高校が載っております。</p> <p>須崎総合高校は、ちょうど計画と同じ平成 31 年に開校いたしますので、「須崎総合高校」として載せております。</p> <p>現在の須崎工業高校は、ものづくりを通じた防災・減災活動などに取り組み、進路保障にも努めておりまして、就職内定率、進学決定率はいずれも 100%を毎年実現しているというところです。就職に強い学校でございます。</p> <p>須崎高校につきましては、地域における防災プロジェクトチームを中心</p>

とした防災・減災活動を充実しております。そういったところが現在あります。

そして、先ほど少しお話が出ましたが、PTAの会長様から、普通科を大学進学の出発点とするような要望がありました。

そういったこともありますので、ここでは全日制のところに、高吾地域の進学・就職、須崎工業高校は就職には強いので、進学や就職、そして産業教育や部活動の出発点校として、充実した教育活動を展開するといったことを盛り込んでおります。

普通科におきましては、大学進学にも対応できる学力を保障し、国公立大学への進学を実現できるようにすると。

工業科におきましては、ものづくりや資格取得の取組、そして就職を主とした進路希望の実現を図っていききたいというふうに思っております。

続きまして、13ページの佐川高校でございます。佐川高校では、地域会として、学校の魅力化というところで、進学や就職の保障、そして独自性のある取組、学校の魅力化の発信という3つが示されました。特に国公立大学への進学の増加といったところがありました。

そういったことで、方向性としましては、国公立大学への進学を希望する生徒の期待に応える進学指導、そして生徒が希望する就職をかなえる進路指導など、というところがございます。

また、地域から大学で外へ出て帰って来れるようにふるさと教育を充実してほしい。佐川町としてもふるさと教育を充実していくというお話がありますので、ふるさと教育、さらに地域課題学習を一層推進するといったような表現を載せているところがございます。

続きまして、橋原高校につきましては、中高一貫教育を行っておりまして、今、お話にもありましたけれども、橋原中学校からは9割が橋原高校に進学しているところです。野球部の部活動の活性化を通じた生徒募集なども行っているというところです。

方向性としましては、小規模校の最大の利点である少人数を生かした授業を核に補習なども充実させていく。きめ細かな指導をしていくというところです。

体育系の部活では、アーチェリー、バスケットボールなど、そして文化系の部活動では、津野山神楽など、特色のある部活動を中心に成果を出していきたい。

また、今年から遠隔教育を導入して、難関大学への受験に対応できるような形で取組を進めていききたいというふうに考えております。

そして、14ページの窪川高校・四万十高校につきましては、前回の教育委員会協議会で議論がありました案1・案2・案3ということで、四万十高校と窪川高校の在り方につきましては、継続する(案1)、そして統合してキャンパス制にして両校の校地を活用する(案2)、そして統合してどちらかの校地に一本化する(案3)、というようなところを記載しております。

今後、地域に出向いて、これについて議論していきたいというふうに考えております。

米印(※)のところには、前回の協議会での議論、こういった議論が出たのかとかいうことについて、議論の経過についても記載しております。

伊藤教育長	<p>そうしましたら、25番の須崎総合高校から29番の四万十高校まで。28・29は先ほど説明したとおりですけども、これらについてご意見をお願いいたします。</p>
平田委員	<p>橋原中学校から橋原高校に9割の方が進学をしたというお話がございましたけど、今年は41名の入学者数ですか、地域外からは何名この橋原高校へ入学をして、その子どもたちは橋原高校の何に魅力を感じて地域外から入学をしたのかは分かりませんか。</p>
竹崎課長	<p>地域外からは11名というふうにお聞きしております。やはり、野球を橋原でやりたいというふうな、そういった生徒がほとんどであるということでございます。</p>
平田委員	<p>橋原高校にも寮はあると思うんですけど、寮の話なんかは、学校からあまり出ないんですか。</p>
竹崎課長	<p>橋原町と橋原高校の間で、そういった寮のことなども話題には上っているということですが、その寮の方の在り方につきましても、各学校で今後検討をしていただくなかで、その在り方というような部分も出していただけるものと考えております。</p>
平田委員	<p>詳しくは聞いてないんですけど、今年の卒業生もいわゆる難関大学へ通ったというお話も聞きました。ここへ、少人数を生かした授業を核にして補習とか添削、面談等のきめ細かな指導をしたというふうに書かれています。</p> <p>このこともやはり、これから中山間地域の学校として学ぶ点が、橋原高校にはあるのではないかと思います。</p> <p>また、地域と一体となった学校運営、学校経営というのも、大変橋原高校については学ぶ点もあると思いますので、そういうところを県の教育委員会としても、色々な取組を教えていただきながら、活用できる学校には活用していただきたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
木村委員	<p>これは質問なんですけども、橋原高校のポツの5番目に、「平成30年度から遠隔教育を導入し」って書いてあるんですけど、これは橋原高校として独自に取り入れるということですか。</p>
山岡企画監	<p>今年度から遠隔教育を実施するという形になっております。</p> <p>まだ、相手方がどこかは決まってないんですけども、橋原高校とどこか。今、導入している学校が、高知追手前高校と吾北分校、そして窪川高校と四万十高校、岡豊高校と嶺北高校という6校があります。</p> <p>まだ4月に指定を受けたばかりですので、相手側、どこと具体的に遠隔教育というのは決まっておりませんが、どこかとやってきたいと考えております。</p>

伊藤教育長	これは、国の事業ですか。
山岡企画監	はい、国の事業です。
伊藤教育長	では、国の事業のどういったものかを説明しないと、遠隔教育というネットワークがあって、どこともすぐにできるようなイメージを皆さん持つので、どういった仕組みでどういことをやろうといしているのかということの説明をお願いします。
山岡企画監	<p>今は学校同士で、指定事業では選択科目だけではないんですけど、例えば吾北分校と高知追手前高校本校であれば、高知追手前高校本校から先生が教えて、本校の方には生徒はいないですけれども、吾北分校の方には生徒がいて、先生の方から授業を受けて、リアルタイムでするので質問をすることができるというような取組で行っております。</p> <p>あとは、窪川高校と四万十高校などにつきましては、両校に生徒がいる形で、受信側の方にも先生がいる、配信側の方にも先生がいる形で、リアルタイムで授業をして両方の生徒の顔が見える形で、今授業を行っているところです。</p> <p>単位認定については、平成 29 年度に初めて単位認定を行ったのが、吾北分校と高知追手前高校本校だということです。</p> <p>リアルタイムですので、スタディサプリとかいうものではなくて、リアルタイムで授業を受けるというようなものが遠隔教育ということです。</p>
伊藤教育長	<p>なかなか、単位認定とかいうことになる、リアルタイムで実施しないといけないとか、受け手側の方に生徒だけじゃなくて教員が立ち会ってないといけないとか、現状、色々な制約があったりしています。</p> <p>そこら辺を実際にこういう実証実験という形でやりながら、どちらかという規制を解除して、本県としてはそういうのをやらせてもらって、成果を見ながら緩和をしてもらおうというようなことを狙いにやっっていこうというような、そんな格好の実証実験を進めていっています。</p> <p>単にオンデマンドで好きな時に見るとか、それから一斉に 1 対 N で配信してというところまでは、まだいってない。ここら辺は今後の ICT を活用したなかで検討していこうかという、そういう取組です。</p>
木村委員	<p>そこら辺はよく分かるんですけども、中山間の学校の大きな課題として、この中でも挙げていますよね。</p> <p>だから、檜原高校だけ、平成 30 年度から導入するって書いてあるので、そこがどういう仕組みなのかなという、そういう質問でした。</p>
山岡企画監	<p>学校の方に、遠隔授業について希望があったのは檜原高校だということです。</p> <p>やはり、かなり多様な生徒が来ていますので、進学にも対応できるような授業を行うということも必要だということで、遠隔授業によって進学にも対応できる授業も、補習なども通じてやっていきたいというふうに考えています。</p>

	<p>かなり多様な生徒がいるなかで、すごく大学進学を目指している生徒もおり、そういった大学進学へのニーズに対応するために、遠隔教育を平成30年度から橋原高校について、先般導入したところでございます。</p>
伊藤教育長	<p>はい。ほかにご質問、ご意見ございませんでしょうか。</p>
各委員	<p>(意見なし)</p>

(6) 幡多地域について

伊藤教育長	<p>そうしましたら、次へ移らせていただきます。最後の地域になりますが、幡多地域について説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>15ページをご覧ください。大方高校からでございます。</p> <p>大方高校につきましては、地域が参画して学校を運営している学校運営協議会などによって、地域課題解決学習などのモデル校になっているというところ です。</p> <p>また、配慮を要する生徒への支援体制が整っているとして、地域会でも保護者から高い評価を得られているというような言葉がありました。</p> <p>そういったところで、方向性としては、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うというところ。</p> <p>そして、コミュニティースクールとして学校運営協議会を通じて行政機関とも協働し、地域課題解決学習である「地域学」の取組を推進していくと、そういったところを方向性には書いております。</p> <p>そして、幡多農業高校につきましては、地域会でも学校の存在価値があがっているというご意見がございました。体験学習や出前授業を通した小中学校との交流なども進めているというところ です。</p> <p>そして、農林業や園芸、食品、製品づくりなどの第1次産業から第3次産業まで掛け合わせた事業を進めてもらいたいと、そういった教育活動もやっていただきたいというようなお話がありました。</p> <p>そういうことで、方向性としては、幡多地域の農業教育の拠点校としての役割を担うというのを第一に書いております。</p> <p>そして、農業関連事業では、第6次産業化に対応できる高い専門性や教養を身に付けるというところで、高知農業高校とも同じような表現になっていますけれども、農業生産工程管理(GAP)教育や食品製造に関する HACCP 教育の充実に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>併せまして、高知県産業振興計画等の連携した取組も推進していきたいと考えております。</p> <p>中村高校・中村中学校につきましては、地域会では進学拠点校として実績を上げ続けていただきたいというところ です。</p> <p>そして、中村中学校につきましては、中学校の段階で高知市の私立に抜けていた生徒を引き止める役割を担っていただきたいというところがありました。ただ、最近少しその期待に応えていないような状況があるというお話が、地域会のなかではございますので、ここでは、幡多地域の進学拠点校として、併設型中高一貫教育校のメリットを生かした学習指導を行っ</p>

てもらいたいというところを書かせていただいております。

続きまして、中村高校西土佐分校でございます。

平成 29 年度時点で 2 年連続して最低規模 20 人を下回ったというところで、募集停止を検討するというような状況でしたけれども、地域会のなかでは西土佐分校の存続意義を高く評価している声がありました。

そのなかで、Rapport（ラポール）というボランティアサークルによる自主的貢献活動、あるいはカヌー一部による全国レベルの活躍とかいったような成果をあげているので、残してもらいたいというような声がありました。

そういったことがありましたので、方向性としましては、地域との連携、交流活動、地域の特性を生かすということを通じて、教育活動の充実を図って、生徒数の確保に努めていきたい。

少人数の利点を生かして、国公立大学進学から就職まで、生徒の進路実現に取り組んでいきたい。

カヌーの活動やラポールの活動を引き続き充実させていきたいというように書かせていただいております。

次の宿毛工業高校につきましては、少し教育委員会協議会での意見、学科改編といった部分について意見がありましたので、4 つ目のポツに、進路希望に応じて、学科改編も含めた弾力的な教育課程の編成により、就職から大学進学までの幅広い進路を保障するというようになっておりまして、電気科のところについて、学科改編を含めて弾力的な教育課程の編成ということも表現させていただいたところでございます。

そして、宿毛高校につきましては、地域会のなかでも、総合学科の意義やメリットが地元浸透していないので、総合学科の意義を一緒に考えてもらいたいというような声がありました。

そういったことがありましたので、この方向性ではポツの 2 つ目ですが、普通科教科だけではなく、多様な専門分野を学べるという総合学科の本来の趣旨を地域に伝えるとともに、その実現を図っていただきたいということでしたので、そこを書いております。

そのメリットを保護者や中学校に理解してもらうように PR をしていく。

そして、津波被害が想定される学校でもありますので、地域と連携しながら避難訓練を実施する。そして、BCP（事業継続計画）の策定を着実に実施する。この点につきましては、高知海洋高校の部分についてお話しがありましたので、ここについても 23 日までに同じように修正させていただきたいと思っております。

清水高校につきましては、清水中学校との中高一貫教育の推進、そして「前期実施計画」では、南海トラフ地震による津波対応のため高台への移転を検討するというようなところがありましたので、ここは今年第 1 回の議論でもありましたけれども、津波被害から確実に生徒を守るために速やかに高台へ移転するというふうなことで、明確に書かせていただいております。

具体的な中身につきましては、校舎をどのような形でしていこうかというところにつきましては、17 ページの下に、案 1・案 2・案 3 ということで、中学校との同居をどうするかというところについて書いております。

こういった方向で、このなかでどのようにしていくのかについては、地

伊藤教育長	<p>域との意見を踏まえながら検討していきたいと考えております。</p> <p>そうしましたら、幡多地域も含めまして、戻っていただいても結構ですけれども、幡多地域およびその他の学校等につきましてのご意見がありましたらお願いいたします。</p>
中橋委員	<p>2点ありまして、まず1点目ですけれども、幡多地域に行ってお話を伺った時に、幡多地域において商業科というものがないので、というお話を聴きました。</p> <p>今回、この方向性のなかに、商業科というような表現が言葉としては見当たらないんですけども、その辺りはどこの辺りで考えられているのかというのをお聞きしたいというのが1点。</p> <p>あと、宿毛高校における総合学科なんですけど、これは室戸高校でもあります総合学科なんですけれども、両方の地域でやはり、総合学科というものについての意見というのが聞かれました。もう端的に言うと、普通科にしてくれというお話を両方から聞きました。</p> <p>そのなかで、室戸高校における表現は、「在り方についての検討が必要」とあり、宿毛高校においては、「本来の趣旨を地域に伝える」ということで、若干両校においてニュアンスが違うので、その辺りはどう考えているのかということと、あとやはり地域の声で、普通科に戻してほしいという話が明確に聴かれたので、その辺り各校において検討するにあたって、そこも踏まえた検討をしてもらいたいと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
山岡企画監	<p>まず、一つ目の商業科につきましては、確かに地域会の方で各ブロックごとの産業系学科・学校を見た時に、商業科が出てきてないというようなご意見がありました。</p> <p>その点につきましては、その時に事務局の方からもお答えさせていただいたと思いますが、今、宿毛高校の総合学科のなかで、商業系列という商業に関する系列があるということで、そこで幡多地域の商業科の部分を補っているというようなところでございます。</p> <p>そういったことで、一定商業系列の充実というところが必要であれば、今後、再編振興計画の最初でその辺、置くのかどうかについては、また検討をさせていただきたいというふうに思っております。</p> <p>同じ総合学科というところで、宿毛高校と室戸高校で書きぶりが違うというようなお話がありました。</p> <p>おそらく宿毛高校につきましては、ニュアンス的には普通科にしてみたいというニュアンスだったと思うんですけども、室戸高校につきましては、42人という形で入学者が減ってきておりましたので、それで4系列が維持できるのかというようなところが議論になりました。</p> <p>ですから、室戸高校につきましては、今の4系列を維持できるのかといった議論でして、普通科にしてくれというようなものではなかったかなというふうには思っております。</p> <p>生徒数減少のなかで4系列を維持できるのか、3系列にすべきではない</p>

	<p>かとか、そんなところでしたので、同じ総合学科でしたけれども、質問された方の趣旨というものが若干違っていたかなというふうに思っております。</p>
伊藤教育長	<p>その商業科の話というのは、どこかに書き込むというふうに対応されるのか。</p>
山岡企画監	<p>もし、今現在は宿毛高校の総合学科のなかに商業科に関する系列、商業の部分があるんですけども、そこを充実してもらいたいというようなご意見があれば、またそこは学校の方ともお話しさせていただきたいというふうに思っております。</p>
竹島委員	<p>大方高校なんですけども、充足率を見るとすごく年々大変なことになっていて、ここは防災教育なんか素晴らしい発表をされたりして、そこら辺はいいと思うんですけども。</p> <p>教育活動の充実を図るぐらいに、やはり地域の小中との連携なども、もう少し大切なのではないかと思いますけども、そこら辺の文言を入れてほしいなと思います。</p>
山岡企画監	<p>大方高校では、町長にも来ていただきまして、地域との連携が図られているというふうなお話、「地域学」というふうなお話、地域にとっては必要な学校だと、地域との連携も図られているというふうなお話もありました。</p> <p>このなかで、ポツの3つ目に保小中高の連携による避難訓練の部分については行っていますので、そういったところを、また避難訓練だけではなくて、ほかの部分にも広げていくような形はしていきたいというふうには思っております。</p> <p>充足率は下がってきていますけれども、どうしてもここは支援を要する生徒、学び直しの必要な生徒への支援体制が整っている学校ですので、そういった取組で充実させていきたいというふうには考えております。</p>
平田委員	<p>幡多地域は学校としてバランスが良く、一定地域ごとに配置をされていると思います。</p> <p>また、資料16ページを見ますと、幡多地域の農業教育の拠点校としての幡多農業高校、進学拠点校としての中村高校、そして工業教育の拠点校としての宿毛工業高校というふうに表記をされております。やはりこの想いをもって学校は取組を進めていただきたいという想いを持っております。</p> <p>幡多地域ということで何かこう、地域的には子どもの動きを押さえやすいような思いは私持っておりますけれども、例えば、15ページの表上段を見ましても、今年あたりは幡多地域で702名と出ています。そして入学者数は555名と。おそらく幡多地域の子どもがほとんど、この555名へは入っていると思います。これを逆に見れば、150名が幡多地域を離れているということになると思います。</p> <p>中学生の、やはり自己実現のために、勉強したいという子どもの思いをかなえるということは大事なことだと思います。</p> <p>しかし、幡多地域を離れれば大変な経済的負担もかかってくると思いま</p>

	<p>すので、バランス良く配置されている高等学校で、地域の中学生や保護者に応えられる教育を、どう取り組んでいけばいいのかということを考えていただきたい。</p> <p>先ほどの表で見れば、平成15年には流出数は約100名ぐらいだったと思います。しかし、流出する数がだんだんと、人口が減るなかで増えているということは率が増えているということにつながると思います。</p> <p>そういう辺りで、「後期実施計画」をしっかりと作り、幡多地域の学校の活性化につなげていただきたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そのほかございますか。これまでのところ全部でも結構ですけども、かまいませんか。</p>
各委員	(意見なし)
伊藤教育長	<p>そうしましたら、これまでいただきましたご意見を事務局の方でとりまとめて、23日の教育委員会の場では整理したものとして、その形で教育委員会に付議をさせていただくようになりますので、よろしく願いをいたします。</p>

(7) その他について (連絡事項・閉会)

伊藤教育長	<p>そうしましたら、本日予定をしておりました協議事項は終了となりますけれども、委員の皆様で何かございましたらお願いします。</p> <p>ないようでしたら、事務局から何らか連絡等ございますか。</p>
山岡企画監	<p>今後の予定としましては、参考資料2の方にスケジュールがありますけれども、今後、教育委員会協議会としては、統合を含めた検討校について公開の場で議論をしていくという形になっております。</p> <p>まだ日程が決まっておりませんが、また地域の方に出向いて意見を聴くという形になっておりますので、安芸地域、そして四万十町地域という形で、出向いて意見をお聴きしていきたいと思っております。また、日程調整をさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、これで本日の教育委員会協議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>